

銀漢亭日録



伊藤伊那男

9月3日(日)▼皆は仲仙寺へ。私はゆつくり朝食。十時、「い

せ」にて「第二十六回信州伊那月俳句大会」。昼、午後の講演会講師の正津勉氏、北村会長と食事。そこへ伊那市西春近の方が井月銘の軸一本持ち込み。竹入弘元先生が急拠、来館して鑑定。真筆！しかも新句と。《菊さくや孫の祝ひによ記日和 井月》いい場面に立ち会う。正津さんは路通について講演。当日句選者の一人は禪次編集長。あと懇親会。そのあといつもの「門」休みとて白鳥市長、正津、北村監督と市の方々のバーベキューパーティーに参加。十六時の飯田線、あずさと昏々と眠りこけて帰宅。

4日(月)▼彗星集選句評書いて十月号終了。店の八月の月次表作成。店、羽咋高校卒の林さん、羽衣衣さん来店、顔合わせ。林さん「銀漢」入会。「かさ、ぎ俳句勉強会」あと十人、など。「天為」の蟬螂子さん京都から。

5日(火)▼閑散。本井英、真砂年さん二人吟行のあとと。お二人とゆつくり話。明日の仕込みなど。二十二時閉める。

6日(水)▼「俳壇」十一月号へ「小諸宿」十句送る。店、「ささらぎ句会」あと十人。「宙句会」あと十三人。てる緒さん家に養子に入ったヨークシャーテリアのバニラ十六歳、お腹の手術無事終了と。

7日(木)▼店、「十六夜句会」あと十三人。大住光汪君元氣。

8日(金)▼村上軯彦、今泉礼奈さん来店。来年四月結婚。五月披露宴と。慶祝！東北大学の浅川君(「駒草」)。「宙句会五周年記念誌」上梓。おめでと。

9日(土)▼十時、運営委員会。昼「いもや」の海老天井。「銀漢本

20日(水)▼高校同期の「三水会」六人。五日市さん三人。あと閑散。

21日(木)▼「銀漢句会」あと十九人。

22日(金)▼発行所を「門」同人会に貸し出し。鳥居真里子さん先月肩骨折し入院中。「金星句会」あと六人。仙台の小田島渚さん参加。清人さん気仙沼の弟さんと。明日、南アルプス塩見岳を目指す。帰路、乗り越して登戸まで。やれやれ……。

23、24日(土日)▼二日間家で過ごす。寝たり起きたり選句をしたりテレビを見たり。夜は家族で食事。この生活が続くとなまってるまうかな……。ともかく久々たつぷり休養。隣家の金木犀の大樹が咲き始める。

25日(月)▼店、「演劇人句会」の十人。

26日(火)▼超閑散。二十一時過、閉めて「大金星」で作句など一時間ほどくつろぐ。

27日(水)▼「雛句会」十二人。皆川文弘さん。オリックスグループ三人(直接の部下ではなかったが)。

28日(木)▼小石さん担当日、誕生日間近とて清人、洋さんよりヴーヴクリコ各々。

29日(金)▼「白熱句会」。井上弘美、水内慶太、檜山哲彦、佐怒賀正美さんと。主宰同士の句会なので一番緊張感を味わう句会かな。

30日(土)▼NHKテレビ「ひよっこ」終了。ずい分泣かせてもらった。十四時より日本橋「鮎の与志喜」にて「纏句会」。十五人全員揃う。句会あと、題の鮎、銀聖の幽庵焼(睦目のうまさ)、揚茄子の味噌あん掛け、すり蓮根と鰻の焼。握り(特に新子佳し)。あと大和、禪次、松山さんと次期同人推挙についての打ち合わせ。ワイン少々。あと一人渋谷に出て、久々「恵」。四十数年前から知っている店。その頃でも老人に見えた親父さんが今もいて、八十二歳だという。跡継の子息に叱られながら黙って仕事している。年月に磨かれたいい顔だ。

部句会」五十七人。あと「テング酒場」で親睦会。

10日(日)▼先日、光汪君と話題にした高校同期の浜功朗君、連絡とつたら逝去していたと。深悼。一日家。十月号の校正。寝たり起きたり。夕方、家族で庭にて夕食。牛舌焼、カラスミなど。久々の晴れで夕風が心地良い。

11日(月)▼藤岡筑郎先生の「りんどう」六百号到来。私の祝句掲載。店、客少なく看板にしようとした頃、京都の蟬螂子、三輪初子さんなど。大住光汪君と「大金星」に少し寄る。

12日(火)▼「火の会」十人。発行所貸し出しの「駿句会」あと三人など。

13日(水)▼「梶の葉句会」選句。店、「井月忌俳句大会」の事前投句受付についての打ち合わせ。井蛙、環順子さん他。閑散。

14日(木)▼編集部は最終校正。「極句会」は店で十人。山田真砂年、天野小石さんいて選句して下さる。

15日(金)▼発行所「薦句会」あと店に九人。唐沢静男君夫妻、久々、上京とて寄ってくれる。金井硯児さんも。客少なかったので私も同席して歓談。

16日(土)▼午前中、十一月号の原稿。十五時過ぎ、恵比寿の「メゾン・ブルミエール」。堀切克洋君の結婚披露宴。新郎新婦が司会をするという珍しい形式のパーティー。隣席は新婦の上司の国土交通省鉄道局長・藤井直樹氏。生後八ヶ月の琴葉ちゃんが可愛い。「銀漢」の仲間五人ほど。終わって渋谷の「森本」にて小酌。

17日(日)▼桃子と孫は氣志團の君津コンサートに泊まりがけで。リーダーの翔やんが成城仲間。台風襲来の最中。

19日(火)▼「銀漢女子会」。臭い物を食べようとして、鮭室鰯のくさや、飛魚のくさや。近江萱浦からの鮎鮎。沖縄豆腐、鮎うるか……。など。他にのどろろ、関崎の開きなど持ち寄りあり。十三人ほど。「こもろ・日盛俳句祭」でお目にかかった上田の河西志帆さん、上京したとて訪ねてくれる。

10月1日(日)▼一時、上野駅公園口。「十六夜句会」の吟行会に招かれて。十五名。谷口いづみさんの案内で駅構内を歩く。昭和七年再建から今日までの変遷の痕跡を見る。あと西郷さん、東照宮、穴稲荷、五條天神社、下町風俗資料館。アメ横の中の居酒屋にて四句出し句会と親睦会。長崎の坂口晴子さん参加してくれて話。もう一軒。

2日(月)▼毎日新聞夕刊に私の記事(『銀漢亭こぼれ噺』そして京都)」。写真に展枝、淳子、麦が写っている。書いてくれた森さんが夕刊沢山持つて五人で来て下さる。「かさ、ぎ俳句勉強会」あと七人。皆川文弘さん。

3日(火)▼待宵の日。恒例の「Oh! 月見句会」。超結社で三十五人集合。月に関する三句持ち寄り。酒や料理も差し入れ多し。終了頃、水内慶太さん見えて八人程で「大金星」。

4日(水)▼「ささらぎ句会」あと七人。「宙句会」あと十三人。二十三時に店を閉める。うっかり新宿で快速急行に乗り、新百合ヶ丘まで。やれやれ……。だが、エッセイ一本分の着想を得たので良いとするか。帰路、名月を見ながら。

5日(木)▼「本にまつわる俳句大会」の選と選評。特選一、入選五、佳作五。八百字。店、「十六夜句会」あと十六人。何と本日、十六夜の月。

6日(金)▼「大倉句会」あと二十五人。小野寺清人さんの兄・弟さん参加で仙台の牛舌、気仙沼の牡蠣、その他の提供あり。今泉礼奈さんと大王製紙の同期五人。礼奈さんと村上軯彦さんの結婚届の証人頼まれる。

7日(土)▼十一時半、鎌倉。「鎌倉句会」の堀英一、中野堯司さんの出迎えあり。蕎麦店で昼食。八幡宮に参拝し十三時、生涯学習センター。十人。五句出し句会。十七時、駅上の和食店にて親睦会をセッとして下さる。越後村上の酒旨し。二十時前鎌倉を後にする。連休というのがともかく嬉しい。帰路、登戸で一杯飲む。